

答 辞

春の日に照らされて高松の森の葉も鮮やかに色付き始める頃になりました。今日、「こうしてしっかりと卒業式を迎えられたことに感謝しています。ありがとうございます。」

二年前、着慣れない制服に身を包み、高松中学校に入学しました。階段ですれ違う三年生の迫力に圧倒されていました。運動会や合唱コンクールを通して三年生のかっこよさにどんどん魅了されていったことを覚えています。それから少しづつ先輩との距離が近くなり、一人、一人、が理想の先輩像をもって二年生に進級したと思います。

二年生になると部活や委員会、二大行事に加え、夏季学園、都内巡りなど行事が多く、毎日とても大変でした。しかし、憧れの先輩にアドバイスをもらいながら、それぞれがやるべきことをこなし、お互いに助け合って乗り越えることができました。また、沢山の行事があったことで仲間の活躍を間近で見ることができ、学年の団結力が自然と深まっていったことを感じました。二年生の後半となり様々な仕事が三年生からバトンパスされ、少しづつ最高学年としての意識が始めていきました。

しかし、突然の一斉休校。お世話になった先輩たちとの別れも気持ちの整理もできないまま、私たちの最高学年としての生活の三分の一が流れるように去っていきました。ようやく夏休み明けからクラス全員での授業が再開し、三年生のスタートがきれえました。それぞれが勉強に力を入れていくとともに体育大会に向けての活動にも精一杯励んでいたことをよく覚えています。練習期間が短く、規模が縮小されながらも三年生全員が協力しあい、例年に劣らないものをつくりあげることができました。また合唱交歓会ではクラスごとに進度が異なり、中途半端な状態での発表になってしまふのではないかと不安でした。しかし、最後に最高学年として良い歌声を届けたいという思いが私たちの心を一つにし、素晴らしい合唱に変えることができました。きっと私たちが一生懸命取り組んでいた姿は、二年生の目にはしっかりと焼き付いているはずです。

三年生のみなさん。正直、思い描いていた三年生としての生活ではなかったと思います。しかし残り少なくなってしまうた中学校生活の中で一人、一人、が自分のやるべきことを行い、何より学校生活を全力で楽しんでいたと感じます。しかし周りの人から「かわいそう」と言われることがあります。それを聞いたとき、私は「私たちは決して「かわいそう」なんかじゃない」と思いました。様々な変化に対してその都度、受け入れ対応した私たちは今までのどの学年よりも強いのです。そんな私たちなら、それぞれの選んだ道の先でも自信をもってやっていけると信じています。

一、二年生へ。先輩らしい姿をあまり見せることができず、悔いは残りますが、私たちの思いは伝わっていると思います。二年生、次は高松を引っ張って行く学

年となります。気持ちを新たにし、後輩たちに最高学年のすごさを行事や部活などを通してしっかりと見せてあげてください。一年生、二年生は行事が多く忙しいですがあつという間に過ぎてしまいます。一瞬、一瞬、を大切にしてください。また、二年生から学び、一年生の憧れとなるような中堅学年になってください。

先生方へ。先生方は私たちを信頼し、様々な学年の仕事を任せてくださいました。その仕事の中で、学校生活を送る上での大切なことを教えてくださったたり、時には厳しく指導してくださったりしたおかげで大きく成長することができました。ありがとうございました。また、私たちが学校生活を何不自由なく過ごせるように影ながら支えてくださった方々にもとても感謝しています。ありがとうございました。

最後にお母さん、お父さんへ。この十五年間、私たちを支えてくれてありがとうございました。愛を込めて育ててくれたおかげでここまで元気に育つことができました。高校に入ると、今まで以上に親の元から離れていくかもしれません、今までと変わらない愛でそっと応援してください。よろしく願います。

最後になりますが、私たちは本当にたくさんの人に支えられて充実した三年間を送ることができました。当たり前のように仲間と楽しく過ごせることや笑いあえることがどれだけ貴重なことか感じることもできました。ありがとうございました。

この三年間、お世話になった方々のご健康と高松中学校のさらなる発展をお祈りし、「答辞」とさせていただきます。

令和三年三月十九日 卒業生代表 ○○○○